

インクルーシブ事業連合 福祉ツアー2014 報告書



日程：2014年9月26日（金）

1. ラポール平塚：社会福祉法人いきいき福祉会（平塚市）…P2～3
サポートハウス「和（なごみ）」、訪問介護（介護保険・支援費・いきいきサポート）
 2. ラポール城南：社会福祉法人いきいき福祉会（藤沢市）…P4～5
サテライト特養、サポートハウス城南、認知症デイ、共生型コミュニティ「かるがも」、訪問介護、夜間対応型訪問介護、在宅介護支援センター
 3. ラポール藤沢：社会福祉法人いきいき福祉会（藤沢市）…P6
特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援、総合相談事業、緊急通報システム、食事サービス
 4. おたがいさん：(株)あおいけあ（藤沢市）
小規模多機能型居宅介護
 5. いどばた：(株)あおいけあ（藤沢市）
デイサービス（おたがいさんのサテライト）
- …P7～8
- ◎ 参加者の感想…P 9～14
◎ 資料…P15～37

<はじめに>

インクルーシブ事業連合では、運動グループの地域福祉ビジョン（市民版・地域包括ケアシステム）「市民による市民のための安心のネットワーク」（仮）の構想を描き、必要なしくみづくりをすすめていきます。

今回の福祉ツアーでは、この市民版・地域包括ケアのイメージづくりにつながる取組みとして、生活クラブ生活協同組合・神奈川が設立した社会福祉法人いきいき福祉会の施設と、高齢者を世話される対象でなく、生活する一人の人間としてとらえるケアを実践している（株）あおいけあの事業所を見学しました。

<いきいき福祉会について>

今回 3 箇所を見学したラポールグループの施設を運営している社会福祉法人いきいき福祉会は、21 世紀高齢化社会にむけて、生活クラブ生活協同組合・神奈川が設立 20 周年記念事業として組合員 7 万人のカンパに「参加型福祉」の実現への想いを込めて設立した社会福祉法人です。

社会福祉法人いきいき福祉会 設立から現在まで

1990 年 8 月：

生活クラブ生活協同組合設立 20 周年記念事業として、生活者・市民による新たな高齢者福祉のあり方を求めて、社会福祉法人及び特別養護老人ホームの設立を決定

1990 年 11 月：

法人設立に必要な資金形成に、1 億円を目標に市民・組合員のカンパ活動実施

1992 年 6 月：

「藤沢市在宅福祉支援システム研究会」を設置し、藤沢の福祉ニーズの把握及び必要なサービス形成のあり方を調査研究

1993 年 3 月：

社会福祉法人いきいき福祉会設立

1994 年 5 月：

特別養護老人ホームラポール藤沢事業開始

2000 年 4 月：

介護保険制度スタートに伴い在宅生活支援事業の拡大開始

2003 年 9 月：

共生型サポートハウス事業として、平塚で「和」と横浜市で「カントゥ西寺尾」事業開始

2004 年 1 月：

「ラポール西寺尾事業」開始

2004 年 7 月：

大和市上和田団地内でデイサービス事業開始

2007 年 4 月：

藤沢市城南で地域密着事業及び共生型サポートハウス事業開始

2008 年 3 月：

大和市上和田団地内商店街で共生型サポートハウス事業開始

2009 年 4 月：

特別養護老人ホーム「ラポール三ツ沢」事業開始

2011 年 4 月：

藤沢市辻堂地域包括支援センター事業（藤沢市受託）開始

2012 年 12 月：

ラポール上和田デイサービス事業閉鎖

2013 年 5 月：

ケアプランセンター ラポール西寺尾事業開始

【ラポール平塚】（平塚市四之宮 1-15-32）

- ◎ サポートハウス「和」
- ◎ 訪問介護
- ◎ いきいきサポート

～サービス付き高齢者住宅の様々な形～ 制度の枠に縛られない在宅ケアの追求 サポートハウス和

1. 概要

2014年5月現在築21年（元企業の独身寮を改築）
2003年から開所
居室面積：6畳1K 共用部面積：食事室、コミュニ
ティールーム その他1階に訪問介護事業所
住戸数：10室 構造：軽量鉄骨造2階建



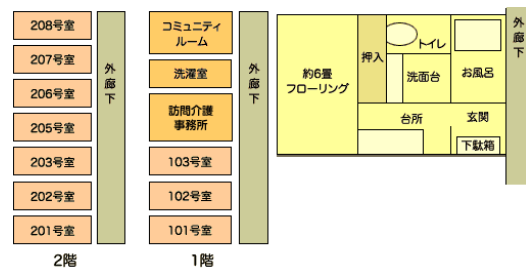
サポートハウス和（なごみ）

不安はあるが「住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていきたい」という人々の願いを、あえてケア付き特定施設（有料老人ホームなど）の形をとらず制度の枠にとられない形で元社員寮を活用して全世代、障がい者、生活困窮者、社会復帰を目指す人にも開かれた共生型住まいを実現している。

2. 心地よい人間関係を形成し地域とつながること
で「最期まで在宅で自分の生活スタイルを維持」
することをサポート

見たところどこにでもある普通のアパートで、いきいき福祉会が一棟まるごと借り上げ入居希望者とアパート契約を結んでいる。アパートの半径500m 圏内には交番、JA、診療所、薬局、複数

のスーパー、コンビニなどがあり、日常生活には困らない。ここが既存のアパートと違うところは、アパート1階に24時間スタッフが常駐することだ。夜勤の人材はオールラポールで確保し対応している。こういうことができるのは社会福祉法人の人材の厚さもあるが、なによりもいきいき福祉会のミッションに沿っている。朝夜の見守りに加え14年10月からは定期巡回が始まっている。開設以来11年間で特養に住み替えた人は1名のみ。5,6名の方の看取りも行った。



スタッフの支援を受け、自立の人から要介護5までの10人が生活保護受給者であろうと、認知症、障がいがあっても時間に縛られることもなく、自分らしいスタイルで暮らし続けている。家賃は生活保護枠として46,000円が2部屋と残り8室は一般入居者用60,000円の2タイプ。どちらも家賃の他に共益費が3,000円とサポート料として月25,000円が必要だ。これが固定費だ。居住者に介護が必要になった場合は介護保険制度などのサービスを利用するが、もしここでのあらゆる生活支援が積み上げ方式なら、社会的に不利な人たちには支払えない。たとえば介護保険制度を使って食事作りの介助に毎食入ることは自己負担が増加するので、コミュニティールームを使ってのミニデイでお弁当を提供するなどの工夫を考え始めている。また社福スタッフや入居者同士のお互い様の助け合いが生活をカバーする。自律して生活することによって現状維持する人も数多いという。逆に入居者たちから多忙なスタッフの健康を心配されるという。お互いに人間関係、信頼に支えられている。

1階のコミュニティールームは入居者同士の自由な交流のみならず地域にも居場所として開放してい

る。そしてセラピー犬ねねが気持ちを和ませる。通路での立ち話や季節に応じて敷地内でのバーベキューを楽しんでいる。私たちが訪問した日もたまたまバーベキューの日で、みんなで栗の皮向きやさんまを焼く七輪の用意がされていた。ラポール平塚は和の他にも近くのマンション3ヶ所の空き室8室を活用してサポートハウスとして一体的に運営している。2LDK、3LDK タイプをシェア居住することもできる。近所なので見守りなどアウトリーチも容易だ。



社会福祉法人の人材、資産を有効活用して「在宅で最期まで自分らしく」の可能性を社会実験している。

報告者：佐々木貴子
(認定 NPO 法人まちぼっと)



訪問介護事業所。隣にはキッチンとコミュニティルーム



コミュニティルームには作品が展示

セラピー犬ねねの名札



【ラポール城南】（藤沢市城南 4-9-8）

- ◎ 認知症対応型通所介護（1F）
- ◎ 共生型コミュニティ「かるがも」（1F）
- ◎ 訪問介護（24 時間、365 日対応）（1F）
- ◎ 在宅介護支援センター（1F）
- ◎ サテライト特養（2・3F）
- ◎ サポートハウス（4F）

施設概要

「自分たちが住みたいと思う生活空間をつくる」ことを目指した“地域密着型複合福祉”の拠点。住まいとして、サポートハウス（見守り付き賃貸住宅）とサテライト特養があり、在宅を支えるサービスとして、認知症の方を対象としたデイサービス、訪問介護ステーション、誰もが集える交流スペースが併設されている。

社会貢献を視野に、古い建物の処分を検討していたオーナーとの出会いが、「ラポール城南」の誕生につながった。建設費用はオーナーが負担、設計はほぼ全て任せてもらい、建物ごと、いきいき福祉会が賃借している。

事業の現状

○共生型コミュニティ「かるがも」

365 日地域に開放しているフリースペース。市民の参加で地域の縁側を目指している。書道教室やパッチワークなどが開催されている。

○認知症対応型デイサービス（定員 12 名）

認知症ケアを専門とした通所介護。費用は介護保険自己負担分＋昼食・おやつ代（800 円）。現在は 10 名。

○訪問介護ステーション

日中の訪問介護、夜間対応型訪問介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の 3 本立てで、24 時間 365 日、安定したサービスを提供。

①訪問介護（8：00～18：00）

介護保険サービスとして身体介護・生活支援、保



険外サービスとして庭掃除や見守りなど。

利用者負担：生活援助は 20～45 分未満 199 円、45 分以上 246 円。身体介護との組み合わせもある。

②夜間対応型訪問介護（18：00～翌 8：00）

夜何かあったらという心配のために活用できる。予め相談の上決められた曜日・時間の訪問と、緊急時の訪問がある。1 回 30 分程度で身体介護中心、1 回ごとの加算料金。

利用者負担は、基本料金：1,049 円／月、定期巡回：399 円／回、随時訪問：608 円／回（訪問介護員 2 人対応の場合 818 円／回）。

③定期巡回・随時対応型訪問介護看護

市全域を対象に 2014 年 10 月からスタート。オペレーションサービス、定期巡回サービス、随時訪問サービスを全て含めた 1 ヶ月の利用料は定額料金となっている。

利用者負担は、訪問介護利用の場合、要介護 1：6,989～要介護 5：27,978 円まで介護度別。訪問看護利用の場合は要介護 1～4：3,059 円、要介護 5：3,892 円。

※②と③には、キーボックス、ケアコール端末や（室内に設置、ボタンを押すとオペレーターが対応、気配や物音もキャッチ）、ペンダント型端末を無料で貸し出し。

○在宅介護支援センター：藤沢市からの受託事業として運営。

○サテライト特養（1フロア8室、全16室）

ラポール藤沢のサテライト型として一体的に運営。職員は本体（ラポール藤沢）との兼務も可能。食事は本体から運び、ここで温めて提供。全て個室・トイレ付。介護保険制度の「地域密着型事業」なので、藤沢市に住民票がある人が対象。

費用は、介護保険自己負担分、居住費78,000円、食費1,700円/日、その他費用。

現状では、利用者の平均介護度は4.23。プライバシーが確保され、自由な雰囲気、家族の来訪が非常に多い。

○サポートハウス（7世帯）

平塚と同様、「自分らしく生き生きと暮らし続ける住まい」がコンセプト。全室24時間対応コール、夜間は1Fのオペレーターや2・3Fのサテライト特養の職員が駆けつける。

朝夕に訪問し安否確認。部屋にはキッチン・バス・トイレが設備されている。年齢は不問。敷金216,000円、月々の負担金は、家賃72,000円、共益費8,000円、サポート料30,000円。

現在は満室、今後、周囲への展開も検討している。



サポートハウス間取

【視察当日の説明】

開設から7年間の経過、共生型コミュニティは、その存在を認められ、藤沢市の「交流スペース（地域の縁側）モデル事業」として選定された。生協立の社会福祉法人として誕生した経緯は、市との信頼関係にもつながっている。視察当日は、ちょうど改修工事中だった。来年4月からは、生活困窮者自立支援の事業に向け、市民相談員を配置し、総合相談事業の実施も検討しているとのこと。

小川さん（いきいき福祉会専務理事）は、制度の課題について「医療・介護の制度改正で、国はこれまで以上に『在宅』へ舵をきっているが、実際には、医療と介護の連携も不十分、病院を退院した後の安心の住まいがない。特別養護老人ホームなどの施設はまだ必要である。実態をつくりながら、声を上げていく必要がある。」と指摘、また、これほどヒューマンサポートの重要性が認識されながら、その対価としての報酬が改善されない問題にもふれた。

さらに、地域の実践者を資源として、まるごと活かすこと、これが私たちの「地域包括ケア」だと強調する。その人に寄り添った「パーソナルサポート」を行うためには、人の関係を切らないこと、1カ所で抱えこまないことが大切。その意味でも「生活困窮者自立支援事業」など、地域に活動のベースがない事業者が実施することは課題が多い。委託如何を問わず、生活に困窮している障がい者や若者のため、何らかの事業、活動を行いたい、と語った。

報告者：石川 紀

（東京・生活者ネットワーク）

【ラポール藤沢】（藤沢市稲荷 345）

- ◎ 特別養護老人ホーム
- ◎ 短期入所生活介護（ショートステイ）
- ◎ 通所介護（デイサービス）
- ◎ 居宅介護支援事業

ラポール藤沢では『住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けたい』という思いを大切に、人があたりまえに持つ権利として私らしい暮らしの継続性を大切にしている。介護職員は寄り添う人という意味で「パートナー」と呼ばれ、地域ボランティアの「市民パートナー」が日々の暮らしを支援している。

○デイサービス（1F）

月曜日～土曜日 8時～18時（サービス提供時間は8:30～17:00、祝日・祭日も通常営業）休日：日曜日、1月1日

毎日40名の高齢者が訪れている。いつまでもその方らしく自宅での生活を続けられるよう「元気の出るデイ」を目指している。

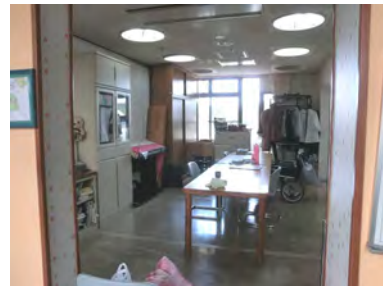
○特別養護老人ホーム（2・3F）

社会福祉法人いきいき福祉会の最初の事業として1994年にスタート。多床室だが10人から14人の小さなグループでユニットをつくり、顔なじみの関係を大切にしている。いきいき福祉会・専務理事の小川泰子さんのお話では、周囲のケアから学ぶことの多い多床室は、個室の1対1でのケアに比べ介護職員のスキルアップには有効とのことだった。

○短期入所生活介護（ショートステイ）

対象：要支援1、2／要介護1～5

入居期間：介護者の疾病、事故、出産、冠婚葬祭、災害、失踪、出張、転勤、看護、学校、公的行事への参加などの理由により、介護が一時的にできなくなった時、その理由が解消されるまでの期間。介護者の介護負担軽減等を目的としての利用も出来る



➤特養の回廊式の廊下のあちこちには、明るい共有スペースが設けられている。



➤ユニットごとに目印のマークがあり、自分のユニットわかりやすくなっている



➤ラポールの3施設を案内して下さったいきいき福祉会・専務理事の小川泰子さん

【株式会社あおいけあ】（藤沢市亀井野 4-12-93）

- ◎ 小規模多機能型居宅介護
- ◎ 通所介護（サテライトのデイサービス）

代表の加藤忠相氏から小規模多機能居宅介護の“おたがいさん”そのサテライトの“いどばた”の2施設を案内していただいたあと、2階の書道教室などを開く地域に開かれたスペースに移り、説明を受けた。



○ 小規模多機能型居宅介護「おたがいさん」

（定員 25 名 通い 15 名 宿泊 5 名）

要介護認定を受けた地域の高齢者を対象に、通いを中心に、訪問、泊まりのサービスを一体的に提供している。単なるサービスの組み合わせではなく、柔軟で継続したサービス体制とケアマネジメントでその方の在宅生活を支える。

建物は1階が小規模多機能型居宅介護施設、2階が書道教室などの地域に開放のスペース一階入り口付近に駄菓子販売しているコーナーがあり、近所の子どもたちがあれこれと注文をつけながら買って行くとの事。コミュニケーションの場ともなっている。中のつくりは田の字型のような感じで仕切る事ができるようになっており、日中は開放して“通いのサービス”を行ない夜はそれぞれが仕切られ“泊り・寝室”になる。奥の方は介護保険制度対象外の方を受け入れる「住居」になっている。決して広いスペースではないが、地域ニーズの重要な受け皿。

○ 「おたがいさん」のサテライト 「いどばた」

（当初よりの事業であったデイサービスを2013年より小規模多機能のサテライトに）定員13名樹齢数十年の柿の木はじめ昔馴染みの井戸やらが大事に置かれた自然豊かな敷地の中に3つの施設の外、加藤社長の自宅が点在して建っており、ちょうどその真ん中通路は地域の学校帰りの子どもたちや、近所の大人たちの通り道にもなっている。

訪問当日も自然に加藤氏がお帰り〜と声をかけていた。子どもたちも急ぐでもなく私たちを見つめてニコニコしながらぶらりぶらりと言う風情で通り抜けていく。

あおいけあのケア

<自立支援と地域づくり>

①マニュアルはなく、その日その時の状況で利用者の方たちの状況とニーズでやることを組み立てていきます。ケアするケアされる関係ではなく一緒に地域づくりをする仲間という、一般的なケアマニュアルでは表せないスタンスで、臨機応変に対応していくということです。

業務マニュアルには追わない・業務は記録だけ。マニュアルではCAREは出来ない！と。

②自立支援は自分でやろうとする芽を摘まず、その人の生き方が反映されるであろう「やりたい事」、「やれる事」を活かしていき、出来るだけ自然に暮らせるようにする。この事も、小規模多機能のメリットである、顔なじみのスタッフや利用者との交流が測り易く、利用者の安心感にもつながっているから可能だと思えました。見学当日、お団子を皆さんで作っていましたが、イキイキと楽しそうでした。

③地域づくり

利用者である高齢者とスタッフがキャストで、地

域の人たちがゲストという姿勢を基本に、多くのボランティア含め地域の人たちと一緒にまちづくりの一環のような形でケアをしているという強い印象を受けました。利用者で作ったものを子どもたちの手で売る、また子どもたちは売るだけでなく作ったものを売るようになる、その利益を利用者や子どもたち当事者に還元して、さらにやる気を引き出していく・・・。何気ない日常の営みで年長者を尊敬する事ができる事等、多世代が関わり集う大切さと楽しさを報告から感じた。



➤おたがいさん入り口

④思いをもったスタッフが誇りを持って仕事ができること、優しい人が優しさを発揮できる職場に。ケアビジョンの共有や、それを基にしたケアのスキルを発揮できるようにする為の工夫などがされている。例えば、記録のための記録はできるだけ排除し、見せていただいた引き継ぎの記録は、その日の出来事を大学ノートに、簡単にそれもイラスト入りで書いてありました。



➤敷地内の井戸

この3年間は離職者がでていないと言うことでした。スタッフの子どもたちも放課後来ている事もOKとの事。仕事を持つ職員には放課後問題で悩まなくてもよいし、利用者にとっても子どもにとってもメリットになります。

<感想>

見学させていただいたが、ちょっと手狭な感じで、室内も雑然としている印象を受けましたが、これも家庭にいるという感じになるために大事な事なのですね。



➤デイサービスいどばたで代表取締役の加藤さんのお話を聞く

このように自然体で地域と一体となって老いていくことをサポートする理念が大切だと思いました。狭いけれど、せまっ苦しくないスペース感と利用者との間合い。ミッションに基づいたケアスキルを追求する姿勢に学ぶべき事多し。

藤沢型コミュニティケアのモデルを！と若さみなぎる発信力と思いに感動しました。

報告者：相原光子（北東京生活クラブ生協理事）

池口葉子（NPO アビリティクラブたすけあい理事長）

【参加者の感想】

植田泉（生活クラブ東京・副理事長）

様々な事例を見せていただけて、羨ましがらだけでなく東京で実現するには何が必要かを考えさせられました。

ラポール平塚のサポートハウス「和」では、どの法律の枠組みにも入らないことで自由さと広がりをつくっていることにそういう方向があるのだと考えさせられました。「ラポール城南」では、積み上げ式でない一括方式で利用者の経済的負担を減らしての24時間の巡回訪問介護を始めようとしていると聞きました。こういうしくみが広がれば家族も安心でき、家で過ごせる高齢者が増えるのにと過去の私自身の経験にも照らしてこれからの期待をもちました。そして、「あおいけあ」のめざすまちづくりにはもう感心でした。他から請われてもまずは藤沢市内でもっと広げて「藤沢方式」を充実させるとおっしゃる加藤さんのこれからの多いに期待したいとおもいました。

今ある形・しくみ・法律にとらわれがちな私たちですが、こんなに自由に想いを実現させる方法があるのだと思わされた一日でした。

↑サポートハウス和



杉浦尚子（NPO・ACT 理事）

＜ラポール平塚 サポートハウス和＞

のどかな住宅地のアパートを有効に利用していて、1階のコミュニティーの場はデイサービスのような雰囲気ではなく、地域の公民館のようで、

自然に地域に溶け込み昔ながらの長屋のような雰囲気でした。

スタッフの方々も気負いがなく、まるでご近所さんのようにしながらしっかりとサポートしている様子がうかがえます。管理ではなく緩やかにつながり地域とつながり穏やかに生活しているのが分かります。

指定病院もなく、決められた食事もなく、本人の意思と選択を重視し、地域の店舗や病院を利用しながら、地域に受けいられて暮らしているこのスタイルは素晴らしいと感じました。

施設の職員の方が事業継続のためにデイサービスを開設する19人の入居者を50人の村にしたい。20年後を見据えての事業計画を立てていると言っておられました。また看取りまでをするためには定期巡回・随時対応型訪問介護看護が必要と感じ10月からスタートするとの事。穏やかな生活の中に1人の人を最期まで責任を持って見る覚悟のようなものを感じました。

＜ラポール城南＞

和とは打って変わって施設らしい施設でした。特に印象に残ったところは交通の便の良いところに訪問看護介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護の拠点が設けられている事でした。とても広々としたスペースに事務所を構えられていて働く環境もよいように思いました。

4階のラポール城南サポートハウスでは入居者の方が玄関を開けて挨拶して下さいました。和より家賃も高くプライバシーがより守られているスペースになっているようで、ライフスタイルに合わせて選択できるのではないのでしょうか。



↑訪問看護・介護などの説明を聞く参加者

<ラポール藤沢>

施設でこれだけたくさんの方が施設内を歩き来しているのは、初めて見たような気がします。入居している方もフレンドリーで声をかけて手を振って下さり生き生きしている様子が見れました。本当に職員やボランティアであろう人が多いことに驚きました。建物が古く地番沈下の上に地震の影響で立て直しも考えているとの事でした。

<小規模多機能おたがいさん>

まずは建物のこだわりに驚きました。とてもおしゃれで太い柱で立てられているデイサービスは加藤氏のこだわりが感じられました。天井が高く生活感あふれるスペースでゆったり穏やかに過ごされている様子が分かりました。たえず利用する高齢者がどう感じるかを常に考え、いつまでも自分が必要とされる場所と一緒に自然に作り上げていくその向き合い方に感銘を受けました。スタッフが記入する利用者の様子を描くノートには、そんな姿勢が詰まっているようでした。

訪問介護員の人手不足が言われていますが、介護員もやりがいが発揮できる場所であれば人は自然と集まってくる。そんな当たり前のことが出来ていなかったと反省しきりでした。

どの施設も生活のにおいがする場所でした。みなさんの笑顔にとっても癒され勇気づけられた一日でした。



↑ あおいけあ代表取締役の加藤忠相さん（中央）

奥村幸子（NPO・ACT 府中たすけあいワーカーズぽぽ）

◆ラポール平塚◆

民間アパートを改築した建物の中に、ヘルパーステーションとサポートハウス(制度外)がある。また、近隣のアパートにもサポートハウス、マンションにはシェアハウスがある。サポートハウスは「自分らしくいきいきと暮らし続ける住まい」をコンセプトに適度な距離で地域と共に暮らしている。利用対象は高齢者・生活困窮者・障がい者、またDV被害者など。家賃(+共益費)+サポート料を利用料金として、サービスは朝夕の見回り・5分程度の手伝い・相談。その他必要に応じて、介護保険サービスや独自ケア「和サポート(15分250円)」が受けられる。ヘルパーステーション横のフロアは地域住民にも開かれたコミュニティールームになっており、週1~2回の教室開催・アニマルセラピー、その他畑しごとなども行っている。

新たな事業として、24時間体制の定期巡回サービスを検討中。ケアの積み上げ式で利用上限に達し、サービスが頭打ちになることを避けたいため。

◆ラポール城南◆

特養・在宅支援センター・訪問介護(24時間・365日対応)・認知症対応型通所介護・共生型コミュニティかるがも・サポートハウスが4階建てに混在。

サポートハウスは平塚と同じく、制度外の事業として、様々な状況の方を入居対象者としている。特養はラポール藤沢のサテライトとして、16室の個室。生活は利用者それぞれのライフサイクルに合わせてフレックスに対応、個室はベッドのみ用意されていて、その他の家具は個人のもの。共生型かるがもは誰もが気軽に立ち寄れる「居場所」。地域住民主体の運営会議が行われている。藤沢市では「縁側事業」を2010年度から進めていて、備品・改修補助がある。

◆あおいけあ◆

小規模多機能型居宅介護「おたがいさん」を同敷地内3ヶ所で展開。介護職員は仕事のマニュアル

ルは持たず、事業所のミッションである「自立支援」「地域との繋がり」を念頭においたケアを進めている。自立支援の考え方から、高齢者ができることを自主的にやってもらう流れ（高齢者のアイデンティティ）を作り、地域との繋がりとして、子どもたちとの交流の場を多く作り、次世代の地域福祉への意識を育てている。

今後の新たな事業として、ペアレンティングホーム・コミュニティカフェ・居場所・小規模サテライトを立ち上げ、リンクしていくことを検討中。

◆福祉ツアーに参加しての感想◆

地域協議会で市民版地域福祉計画を作成する中で、生活クラブ運動グループの目指す「暮らし方」を話し合う中では、「在宅で暮らす」ための社会資源やシステムを進めることを基本に置くことを確認し、今回の福祉ツアーでは、そのための計画案策定に向けての新たなヒントを探すことを一つの目的として参加しました。

サポートハウスは、地域とのつながりを作りながら、一人暮らしでも在宅で暮らし続けることができる住まい方であることを理解しました。

小規模多機能型居宅介護事業も、在宅で暮らすための資源ですが、地域密着型の事業としての社会的メリットが理解できました。

「住まい方」の課題と解決を今回のツアーで認識・学習することができましたので、地域に戻し、今後の活動につなげていきたいと思えます。

私たち市民が求める地域社会の在り方は、制度内のシステムや既存の施設の中で考えるのではなく、市民が主体的に考え、計画、実践、提案していくことが必要であると思えます。そのためには、運動グループが連携・連合し、それぞれの団体の強みをつなぎ合わせ、大きな力として、私たちが目指す地域社会を実現していくべきだと更に思いました。

相原光子（北東京生活クラブ生協 理事）

ラポール平塚では、社会福祉法人いきいき福祉会専務理事の小川康子さんが迎えて下さいました。2階建の民間アパート一棟を改築してサポートハ

ウスとヘルパーステーションを併設している。様々な理由で済み慣れたところから越してこられ、自分の住まいと思い定めたのは、こういった理由だろうか。そこに集う人々がいて、必要な先に相談やら手助けをしてくれる安心感だろうか。自分で決めたとは言え喜んでいただろうか。仕方なくだろうか。様々な事を考えさせられました。

以前、北欧の施設見学をした時との違いを強く感じたのは色彩、いろどりと部屋の広さ。明るい紺碧の空の中に透明感のあるカラフルな人、物、それでいて落ち着きのある配色にここからホッとしたことを思い出しました。自分らしく住み慣れたところで、できれば暮らしの質を維持して終末期を迎えたいと思っているが簡単なことではないと強く感じました。そこに住んでいる方が職員の健康を気遣うというエピソードは人と人のつながりが日々の暮らしが自然な形でなされているのだと思いました。

小川さんのお話しは、個人が尊重される生活を大切にするためには、どうすればよいのかという視点が根幹にあり、そこから出てくる経営効率とのせめぎ合いの中で、行政、市民、生活クラブなど周囲を巻き込んで創ってこられた大変さと、そう思った者がやるしかないという自負が感じられ、こういった方が強く引っ張ってこられたのだとただ感嘆しました。なにものにも束縛されない自由な思いでこうあったらいいなという世界を描き創り上げていくことが大切なのだと痛感した一日でした。



↑ラポール藤沢の中庭

池座俊子（東京・生活者ネットワーク 代表）

9月26日（金）、生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合主催の福祉ツアー2014に参加した。視察したのは社会福祉法人いきいき福祉会が展開しているラポール平塚・城南・藤沢の3つの施設と（株）あおいけあが運営する小規模多機能おたがいさん。

社会福祉法人いきいき福祉会は生活クラブ生活協同組合神奈川が設立20周年記念事業として組合員7万人のカンパに「参加型福祉」の実現への想いをこめて設立した社会福祉法人。当日は専務理事の小川泰子さんが同行して下さった。

ラポールグループと（株）あおいけあは運営形態に違いはあるものの、どちらも強く意識しているのは当事者主権と地域に根差した運営だと感じた。

ラポール平塚サポートハウス和（なごみ）は住宅地にある民間の2階建てアパート。サポートハウスと訪問事業を行っている。当日は午後から交流会が行われる予定で、アパートの前庭にテーブルが用意されており、そこでお話を伺った。高齢者のみならず障がい者や社会復帰を目指す方、DV被害者、一人で生活するのが不安と感じている方など、年齢制限なく入居可能で、親子・兄弟などの入居も可能。アパート契約なので暮らし方は自由。介護保険サービスやかかりつけ医もそれぞれが契約する。サポートハウスのサービスとしては朝晩2回の安否確認と相談支援、相談緊急時対応（希望者に緊急コール）。宿直職員がいるので、夜間不安になった居住者の話し相手もする。このサポート料金は一か月25,000円でこれは利用することが条件。家賃、共益費を加えても生活保護受給者や年金暮らしでも入居可能な料金設定となっている。また一室がコミュニティルームとなっており、地域に開かれた場として編み物教室やはがき絵などの趣味活動も行われている。

ラポールグループは特別養護老人ホームなども経営しているが、小川さんはだからこそ靴を脱いで上がる自宅で自分の暮らしができるサポートハウスをつくることにこだわっているという。「生活があるから長生きできる」との信念を強く持った

と小川さんが話されていたのが印象的だった。

さらにサポートハウス和から歩いて5分以内のアパートやマンションの部屋を社会福祉法人が借り上げることで、身寄りのない高齢者などが「地域の自宅」に暮らすことを可能とし、空き室のオーナーにとっても安心して賃貸できる仕組みとなっている。地域の方から見守りをしてほしいとの声も寄せられているとのことで、新たな事業展開も考えているという。地域に溶け込みながら、地域のニーズに合わせて事業を拡大していく力強さを感じた。



↑ 通学路にもなっている施設の敷地内の通路

午後の見学先は39歳の加藤忠相さんが藤沢市で展開する小規模多機能居宅介護「おたがいさん」、グループホーム「結」、デイサービス「いどばた」。まず施設と加藤さんの自宅の間の垣根のない小道、花の揺れるオープンガーデン、以前からあったであろう桜や柿の大木、井戸と小さな池などが醸し出すゆったりした雰囲気魅せられた。小道で話を伺っていると小学生がグループで何組も通りかかる。この子どもたちが、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に、懐かしいような、取り戻したい日本の暮らしができるのだろう。おじいちゃんがトロ箱に稲の苗を植えていたら子どもたちも一緒に田植。そこで子どもたちはおじいちゃんの稲の育ちが良いのを見て「すごい」と思う。

おじいちゃんはデイサービスに来るや、「今日は材料を買いにホームセンター行く」という。スタッフはおじいちゃんと一緒に買い物し、昔取った杵柄の大作業を見守る。施設の時間割に利用者が合わせるのではなく、その人らしい暮らしを支え

るのが介護の専門職。散歩に行こうと声をかけても動かないおばあちゃんに公園の掃除をしに行こうと誘えば喜んでお出かけ。掃除をして地域貢献することでお年寄りは「ありがとう」と感謝され、社会資源となる。

「おたがいさん」では3年以上介護職の離職はゼロ。これは加藤さんは心から自慢していること。介護職を志す心優しい人に利用者を支配・管理させてはいけない。おじいちゃん、おばあちゃんの自立支援を促すのが「おたがいさんケア」。だから稟議書や決裁書は一切必要なく、現場の裁量に任されている。「通い」「泊まり」「訪問」であたり前のゆったりした暮らしが展開されていた。

地域の資源を生かし、高齢者がその人らしい暮らしの主体者となることを支えるいきいき福祉会や（株）あおいけあの実践は、それがだれもが住みやすい地域づくりにつながることを示している。「地域包括ケア」をより現実的に、身近に感じることができた。



↑ デイサービスいどばた



↑ 「おたがい産」こしひかりの苗

石川 紀（東京・生活者ネットワーク）

2015年の介護保険制度改正では、要支援1・2の人の福祉分野の予防給付が、地域支援事業に変わる。制度の課題は強く指摘しつつ、安易なボランティア論や家族介護への後退にならないためにも、市民参加型の地域福祉で、その人らしさを実現する「居場所」と「住まい」をどう実現するか、地域が問われる問題である。

さらに、社会福祉法人については、現在、国において制度の見直しが行われている。「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」（座長：田中 滋・慶応義塾大学名誉教授）は、今後も社会福祉法人が福祉の重要な担い手として地域住民・国民の期待に応える存在であり続けるための改革案を検討、2014年7月4日に「社会福祉法人制度の在り方について」報告書を取りまとめ、制度改革に向けた論点として、①地域における公益的な活動の推進、②法人組織の体制強化、③法人の規模拡大・協働化、④法人運営の透明性の確保、⑤法人監督の見直しについて提示した。社会福祉法人制度の意義・役割を問い直す厳しい指摘も確かであり、制度の見直しは必要だが、「規模拡大（・協働化）」が、社会福祉法人の適正化につながるのかどうか、疑問も残る。

神奈川の生活クラブ生協の組合員が生み出した「社会福祉法人」を、設立から20年が経過した今、どれだけの組合員が知っているのかと、専務理事の小川さんは指摘しているが、東京でも、社会福祉法人悠々について、もっと私たち自身が設立経緯も含め、存在意義を確認することが必要である。そして、社会福祉法人に限らず、まず、運動グループの様々な活動を、身近な社会資源として知った上で、さらにグループだけにとどまらず、外に向けて連携することが、市民版地域福祉計画の実態づくりと、地域からの制度提案につながると思う。



↑ラポール藤沢 入居者の写真や作品がずらりと展示された廊下

土田さち子 (NPO・ACT 理事)

2025年まであと11年。

4人に1人が75歳以上の超高齢社会が到来します。これまでの高齢者対策だけでは対処できない事、想定外の問題が出てくるのではという気がします。

今回伺った『ラポール平塚サポートハウス和』のように、地域の中でアパート、マンションでの一人暮らしをサポートされながら、気兼ねなく自分で暮らし方を選んで最期まで暮らすことが出来るしくみ作りは人間関係の希薄な都市部に早急に作りたい機能です。

また、今回のツアー参加の前に「NO！寝たきりデー」で、あおいけあのか藤忠相氏の報告を聞き衝撃を受けました。実際に訪問をし利用する人もケアする人もイキイキとした表情をしていてスタッフ、利用者、ボランティアが入り混じってワイワイガヤガヤとても楽しそうでした。

訪問した9月26日はお彼岸の明け日といって、デイサービスのおやつは「明け団子」といって、仏様に持って帰っていただくのだそうです。利用者的高齢者から「明け団子」のいわれを教えられて、いっしょに団子を作っていました。

あおいけあでは「高齢者とスタッフがキャストで地域がゲスト」じいちゃんばあちゃんとスタッフは、見る看られる関係ではなく地域づくりの仲間。

高齢者のアイデンティティ（存在意義）に着目し、大工仕事、料理、農業、縫い物、それぞれ得意分野を発揮してもらうことで、元気になってもらいたい。

それは高齢者を社会資源としたとりくみで地域づくりとなっています。

障がいのある人、高齢者を地域を支える人材という発想で、世代を超えて共助のしくみづくり、街づくりのヒントをたくさんいただけたツアーでした。

なかなか柔軟な発想ができなかったですが、地域に帰って早速仲間にツアーで見聞きしたことを伝えたくまりました。



↑サポートハウス和のセラピー犬ねね

【資料】

- 1、ラポールグループ パンフレット……………P16～18
- 2、ラポール平塚 サポートハウス和……………P19～27
- 3、ラポール城南 パンフレット……………P28～29
- 4、ラポール城南 訪問介護ステーション…P30～31
- 5、ラポール城南 サポートハウス……………P32～33
- 6、あおいけあ 説明資料……………P34～37

地域社会の豊かさをひろく

社会福祉法人いきいき福祉会
ラポールグループ

Rapport

ラポール横浜/ラポール静岡/ラポール福岡/ラポール高崎
ラポール草津/ラポール北郡/ラポール三ツ沢

七 萬 人 の 信 頼

社会福祉法人いきいき福祉会は

21世紀高齢社会に向けて、

生活クラブ生協同組合が

設立20周年記念事業として

組合員7万人のカンパに

「参加型福祉」の実現への想いを込めて

設立した社会福祉法人です。

「七万人の信頼」とは、

地域コミュニティの信頼であり、

地域生活者・市民の信頼を

表現しています。



ラポール北郡

▼ラポール小津
〒254-0914 草津市小津1-15-32
TEL:0465-25-5373 FAX:0465-25-7203



▼現役地は地域包括支援センター
〒251-0845 草津市北郡山田1-13-27
〒251-0845 草津市北郡山田1-13-27
TEL:0465-24-0911 FAX:0465-24-0911



▼ラポール草津
〒251-0963 草津市草津1-34-5
TEL:0466-89-4165 FAX:0466-83-1748
▼ラポール小津
〒251-0857 草津市小津1-15-32
TEL:0465-25-5373 FAX:0465-25-7203



▼ラポール北郡
〒254-0914 草津市北郡山田1-15-32
TEL:0465-25-5373 FAX:0465-25-7203



▼ラポール西寺岡
〒221-0007 沼津市西寺岡1-1-1
TEL:045-438-5327 FAX:045-438-5101



▼ラポール三ツ沢
〒249-0267 高崎市三ツ沢1-1-1
TEL:045-337-3366 FAX:045-337-2266



【横浜事務所】TEL:045-220-0000
【沼津事務所】TEL:045-220-0000
【草津事務所】TEL:0465-25-5373
【北郡事務所】TEL:0465-25-5373
【西寺岡事務所】TEL:045-438-5327
【三ツ沢事務所】TEL:045-337-3366

【草津事務所】TEL:0465-25-5373
【北郡事務所】TEL:0465-25-5373
【西寺岡事務所】TEL:045-438-5327
【三ツ沢事務所】TEL:045-337-3366

【草津事務所】TEL:0465-25-5373
【北郡事務所】TEL:0465-25-5373
【西寺岡事務所】TEL:045-438-5327
【三ツ沢事務所】TEL:045-337-3366

【草津事務所】TEL:0465-25-5373
【北郡事務所】TEL:0465-25-5373
【西寺岡事務所】TEL:045-438-5327
【三ツ沢事務所】TEL:045-337-3366

社会福祉法人いきいき福祉会

〒251-0962 草津市草津345 TEL:0466-83-4165 FAX:0466-83-1750
URL: <http://www.rapport.or.jp> e-mail: yokou@rapport.or.jp
理事長 橋田民巳 事務局長 松谷健治 副理事長 山根孝子



地域の個性の中で育つ参加型福祉 住み慣れた地域であなたの暮らしを応援します

ラポール藤沢

- ◆特別看護老人ホーム
「高齢になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らしたい」という思いを大切に、「看護」ではなく「住まい」と考え、日常生活を重視した家環境の環境をめざしています。
- ◆「暮らし」を大切にする
「暮らし」を大切にする。暮らしを大切にする。暮らしを大切にする。
- ◆通所介護（デイサービス）
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。
- ◆短期入所（ショートステイ）
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。
- ◆居宅介護支援
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。

ラポール三ツ沢

- ◆特別看護老人ホーム
一人ひとりの暮らし方を大切にしたい。一人ひとりの暮らし方を大切にしたい。
- ◆短期入所（ショートステイ）
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。

ラポール西寺尾

- ◆通所介護（デイサービス）
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。
- ◆サポートハウス「和」
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。

ラポール城南

- ◆認知症対応型通所介護
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。
- ◆共生型コミュニケーション「かるがも」
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。
- ◆訪問介護（24時間、365日対応）
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。
- ◆在宅介護支援センター
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。

ラポール城博

- ◆サポートハウス「ラポール城博」
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。

ラポール平塚

- ◆訪問介護
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。
- ◆サポートハウス「和」
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。

ラポール上和田

- ◆共生型コミュニケーション「ひたまり」
「介護」を大切にする。介護を大切にする。介護を大切にする。

藤沢市辻堂地域包括支援センター

地域の皆さまが、暮らされるその人らしい暮らしを地域で暮らす。地域の皆さまが、暮らされるその人らしい暮らしを地域で暮らす。

※記載されているサービスは、一部の地域を除き、介護保険の適用外です。お住まいの地域にお近くの事業所までご連絡ください。



ラポールの基本理念

- ① 社会の一員としての尊厳を支えます
- ② 市民としての生活の価値を大切にします
- ③ 自己決定による主体的な生活を尊重します
- ④ 福祉コミュニティ形成(まちづくり)の視点で「参加型福祉」社会の実現をめざします

その人らしさを大切に—

オルタナティブなケアをめざして

ラポールグループでは、その人の個性や生活の継続性を尊重し、生き方丸ごとを捉えた総合的なケアをめざしています。

例えば、「育てるよろこび」を大切にするアニマルセラピー・園芸療法、趣味のひとつときを共有する音楽療法や映画鑑賞、できる限り薬に頼らない多様な代替療法としてアロマセラピー・カウンセリング…。また、環境に配慮して毎日の生活には合成洗剤を使用しません。



ラポールグループは「住まい方」にこだわります

ラポールグループはその人らしさを実現できる「居場所」の提供にこだわります。既存の施設福祉サービスだけでは選択肢が狭すぎ、地域生活者としての安心な空間が必要です。暮らし方にこだわり「その人らしい」生き方を支えること、それがラポールグループのケアの基本です。

ラポールは参加型で運営しています

ラポールグループの事業はおおぜいの多様なワークの参加で成り立っています。私たちは、利用者とケア提供者が対等なパートナーであると考えています。一人ひとり、社会の一員として地域とも関わります。それがまた福祉コミュニティ形成につながるのです。



全世代型の住まい

ラポール平塚サポートハウス和



建物外観 Photo 渡田悠樹

セツビ一犬「ねね」

社会福祉法人いきいき福祉会 ラポール平塚 サポートハウス「和」
(平塚市四之宮1-15-32 電話 0463-25-2773)

サポートハウス和とは・・・

◆ どなたでも入居が可能なお住まいです。親子・兄弟・友人同士で入居する事もできます。

高齢の方、障害をお持ちの方、社会復帰を目指している方、一人で生活するのが不安な方等・・・。
但し、近隣にお住まいの方々にご迷惑をお掛けする事なく暮らすことができるかどうかについては、事前にお話しを伺わせて頂きます。

◆ アパートやマンションタイプ、1K～4LDKの間取りで色々なお部屋があります。
お家賃の設定は間取りに応じた46,000円～100,000円になります。

◆ 有料老人ホームとは異なり、賃貸契約の為に入居金は必要ありません。(別途敷金あります)

◆ 連帯保証人、身元引受人がない場合でも、ご入居可能です。
但し、成年後見人をご提案させていただく場合がございます。

◆ アパート契約の為、完全なプライベートの空間でお過ごし頂けます。

時間の決まりは全くありません。ご家族・ご友人も自由にお越し頂けます。
暮らし方は、自分で決められます。職員にも気兼ねのいない暮らしが出来ます。
入院しても、帰ってこられる「家」なので、最期まで暮らす事も出来ます。

● 家電付のお部屋もありますので、病院等を退院され、新たに生活をスタートする場合にも便利です。

● サポートハウス事務所の中のコミュニティルームは、自由にご利用いただけます。



● 季節のイベントや外出などの企画があり、ご入居の方々同士の交流もあります。



サポートハウスでの生活モデル

生活保護受給者の方の場合

収入	固定費		合計
	住宅扶助	生活扶助	
46000	75000		121000
支出	固定費		合計
	家賃	共益費	
46000	4000	25000	33600
その他の生活にかかもの			合計
水光熱費	食費・生活費	デイサービス (週2回利用)	
14000	20000	6500	115500

※水光熱費、食費などは、個人差があります。1年間で平均した金額です。
 ※デイサービスは、ご利用した場合にかかる金額です。

年金受給者の方の場合

支出	固定費		その他の生活にかかもの				合計
	家賃	共益費	食費・生活費	介護保険利用料 (要介護2)	デイサービス (週2回利用)	医療	
タイプ1	46000	4000	30000	21000	6500	5000	152500
タイプ2	家賃	共益費	水光熱費	介護保険利用料 (要介護2)	デイサービス (週2回利用)	医療	合計
	60000	3000	15000	21000	6500	5000	
			30000	21000	6500	5000	165500

※介護保険利用料、医療費などは、個人差があります。

※要介護度別に、介護保険を最大限に利用した場合

要介護1・・・18000円 要介護2・・・21000円 要介護3・・・29000円

要介護4・・・33000円 要介護5・・・39000円

※なおよそ、上記の金額(介護保険利用料)がかかります。

サポートの内容

安否確認

8:00、19:00の1日2回、宿直者がお部屋に伺います。
職員が宿直をします。知っている人が泊まっているから、安心です。

緊急時対応

ご希望者は、緊急コールをお渡しします。何かあった場合は、事務所の携帯電話に連絡が入ります。



真ん中のボタンを押すだけ！操作は簡単です。

首から下げて持ち運びもできます。

相談支援

お困りごと等のご相談を受け、必要時は行政・サービス事業所へ橋渡しをします。
様々な関係機関と連携し、生活を支える為の支援を行っています。
市町村(生活福祉課・障害福祉課・高齢福祉課)、医療職、看護職、あんしんセンター、成年後見人など・・・。

サポート料(1ヶ月) 25,000円 (複数人でご入居の場合は変わります)

もしも生活における支援が必要になったら…

同一敷地内に訪問介護事業所があり、サービスを提供できます。
経験豊富な職員が揃っているので、安心です。

訪問介護【指定事業者番号 1472000809】

介護保険の要介護認定を受けた方がご利用できます。
居宅介護支援事業所「ケアプラザセンター ラポール」のケアマネジャーをご紹介する事もできます。
平塚地域担当のケアマネジャーも宿直をします。生活を把握しやすいから、サービス調整も円滑に進みます。

障害者居宅介護【指定事業者 No 1412000489】

障害手帳のお持ちの方がご利用できます。
申請する場合は、お手伝いします。

※上記のサービスは訪問介護計画書に沿って、ご自分で出来ない部分のお手伝いをします。

生活援助・・・調理、掃除、洗濯、買い物などの家事
身体介護・・・排泄、入浴、食事の介助など

和支援(自費サービス) 1時間1000円

どなたでもご利用できます。
15分250円からサービスしているので、短時間で終わる支援に対しても使いやすくなっています。

訪問介護や障害者居宅介護では行えない、外出や通院のお手伝いも行えます。

住み替えが必要になったら…

- サポートハウスは最期まで住み続けられる住まいです。
- 特別養護老人ホーム、障害者施設等へ住み替えをご希望の場合は、手続き等のお手伝いをします。
同一法人にあるラポール藤沢(特養)・ラポール三ツ沢(特養)、ラポール西寺尾(グループホーム)への住み替えもできます。



特別養護老人ホーム ラポール藤沢
(藤沢市稲荷) Photo: 淺田玲樹



特別養護老人ホーム ラポール三ツ沢
(横浜市保土ヶ谷区)



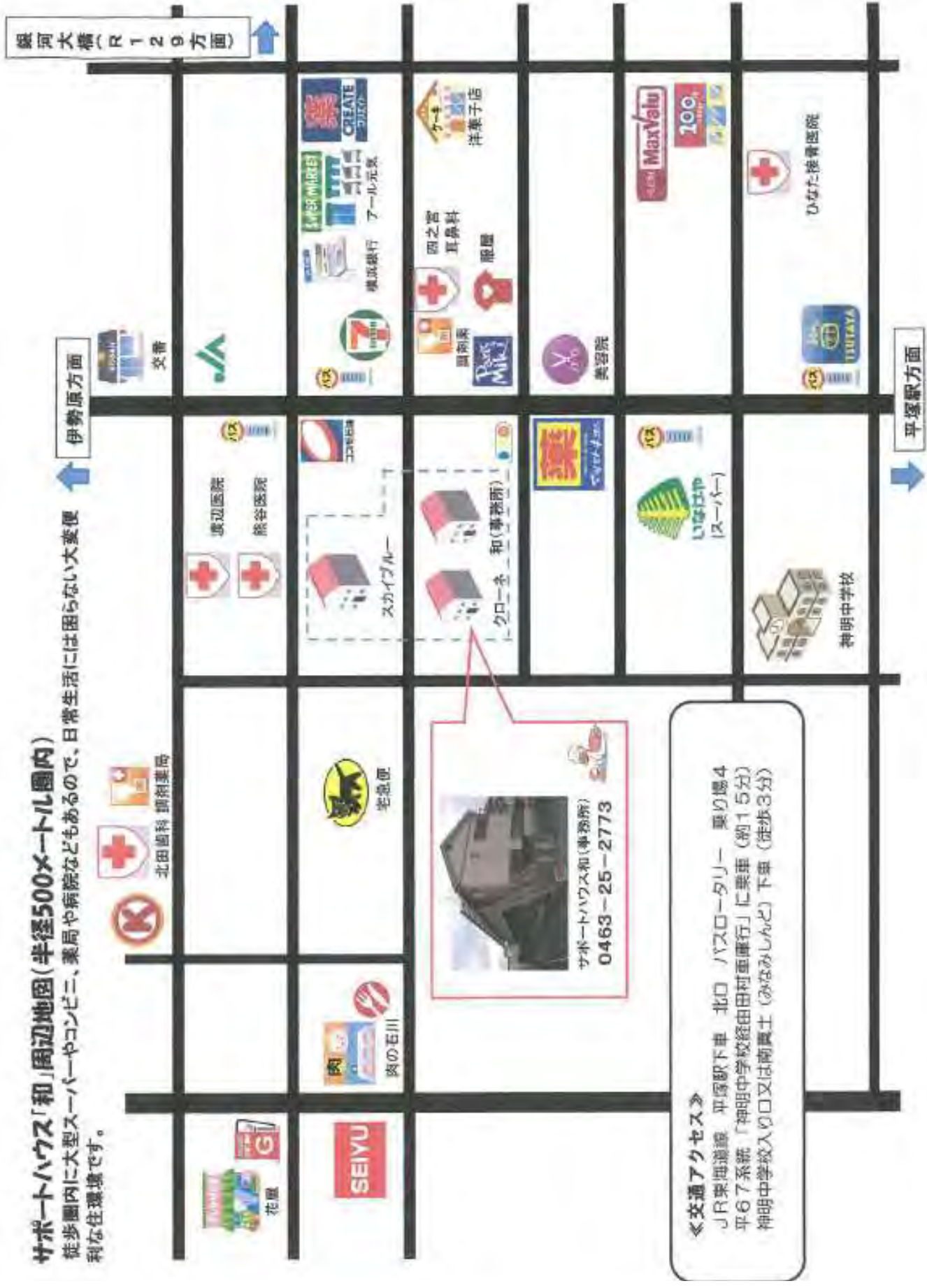
グループホーム ラポール西寺尾
(横浜市神奈川区)



いきいき福祉社会ホームページ <http://www.rapport.or.jp>

サポートハウス「和」周辺地図(半径500メートル圏内)

徒歩圏内に大型スーパーやコンビニ、薬局や病院などもあるので、日常生活には困らない大変便利な住環境です。



《交通アクセス》
 JR東海道線 平塚駅下車 北口 バスロータリー 乗り場4
 平67系統「神明中学校経由田村車庫行」に乗車(約15分)
 神明中学校入り口又は南真土(みなみしんど)下車(徒歩3分)



■ラポールは「市民が創る地域」にこだわります

七万人の信頼 社会福祉法人いきいき福祉会は、「参加型福祉」の実現を目指し、生活クラブ生活協同組合の設立20周年記念事業として、組合員7万人のカンパにより1994年に設立されました。その思いが地域コミュニティへの信頼として広がり、参加型福祉が花開けることを目指しています。



人と人が支え合う、地域のネットワークを点から線へつなげ、さらに面へとひろげながら、市民と共に地域に最適な福祉を創ることを目指している社会福祉法人です。

■ラポールは「人権」にこだわります

「一人ひとりの『住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けたい』という思いを大切に、人があたりまえに持つ権利として暮らしの継続性を大切にしています。そして、どこで、どのような状況で暮らしていても、一人ひとりが持つ権利を互いに尊重し合う「助け合い社会」でありたいと考えます。



■ラポールは「住まい」にこだわります



その人らしい生き方や暮らし方を大切に、地域の中で安心して暮らし続けられるよう、**サポートハウス事業**を行っています。サポートハウスは社会福祉法人が運営する賃貸住宅です。毎日の朝夕の声かけや24時間の緊急コール体制、福祉専門職や市民の知恵で、心近所づきあいや趣味など今までの暮らしを大切にしながら、安心の暮らしを支援します。

■ラポールは「環境」にこだわります

ラポールグループでは、洗濯や掃除、そして入浴には環境を汚染する合成洗剤を使わず、「せっけん」を使っています。合成洗剤は浸透力が強いので、急入りやすいだと思っても衣類や食器に洗剤成分が残っていることで、皮膚障害の原因のひとつになるといわれています。入居者の衣類やおむつの洗濯、シャンプーは「せっけん」を使い、入居者の皮膚障害はほとんどありません。身体にやさしいせっけんを使うことは「介護の一環」と捉えます。

また、環境に配慮した取り組みとして、イベント時には「リ・リパック」(リサイクル容器)を使用しています。



■ラポールは「24時間・365日」にこだわります





交通機関

- JR東海道線「藤沢駅」北ローパスにて羽黒下車（バス停目の前）
- 小田急線「藤沢本町駅」より、徒歩15分

社会福祉法人いきいき福祉会

ラポータル城南

〒251-0057

神奈川県藤沢市城南 4-9-8

TEL 0466-31-0755

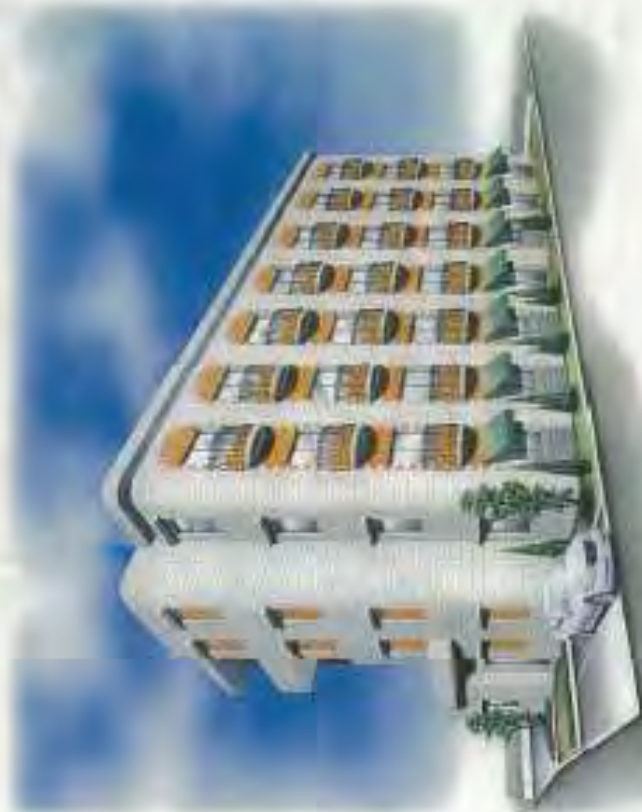
FAX 0466-31-0756

お気軽に
お問い合わせ
ください



ラポータルグループホームページ <https://www.rapport.or.jp>

社会福祉法人いきいき福祉会 ラポータル城南



～地域と共に築く参加型福祉を実現するため～
いつでも・誰でもが集える場所

～地域密着の福祉拠点～「ラポール城南」

「自分たちが住みたいと思う生活空間をつくる」ことを目標とし、地域密着複合福祉拠点「ラポール城南」を開設いたしました。住み慣れた地域での「その人らしい暮らし方・住まい方」を支援することを目指します。

2・3階 サテライト特養ホーム(定員16名)

全室個室・トイレ付きの特養ホームとなります。利用は24時間ホームラポールスタッフの巡回として、一体的な運営を図ります。

※介護保険制度の「地域密着事業」：藤沢市に住所がある方が

＜費用＞

- 介護保険自己負担分 78,000円
- 家賃 1日1,700円 ○その他費用(雑居費)

共生型コミュニティ「かるがも」

(365日 地域に開放しているアトースペース)

子供や高齢の方や障がい者や健康な市民…だれもが集えるアトースペースです。自然な関わり合いの中で「支え合い」や「お互い様」のある社会づくりを目指します。気軽な福祉の場としての相談場所です。

誰かと話したいとき、お茶をのんだり、ちょっと「ホッ」としたいとき、生活に関するご相談も気軽にどうぞ…

4階 サポートハウス(7部屋)

「自分らしくいきいきと暮らし続ける住まい」安心のある賃貸住宅です。朝・夕に訪問し安否確認を致します。また、お部屋にはキッチン・バス・トイレを常設しており、全室コール付きとなっております。安心してご自分らしい生活」を支援します。

敷金	216,000円
月々は以下の通りとなります	
家賃	72,000円
サービス料	8,000円
管理費	30,000円

※税別です。



1階 ヘルパー(日中)

ラポール城南のヘルパー事務所です。介護保険制度の援助のほか、制度外での生活支援も行ってまいります。〈毎度外＝1500円/時間〉

夜間対応ヘルパー

(地域密着型事業)

登録をされているご利用者へ、夜間訪問しケア提供を行います。緊急時等に駆けつけられるよう、事務所に通じたコールが設置されます。夜間の安心をつくります。

1階 認知症対応型デイサービス(定員12名)

認知症ケアを専門とした通所介護です。

※9:00頃のお迎えにはじまり、お一人お一人の価値観を中心にすえた時間・空間づくりと生活リハビリを行います。

＜費用＞ 介護保険料自己負担分 + 昼食・おやつ代(¥800)

社会福祉法人いきいき福祉会
ラポール城南サポートハウス



サポートハウスとは・・・

—自分らしくいきいきと暮らし続けられる「安心のある」住まいです—

● **プライバシーのある「住宅」です**

キッチン・バス・トイレを常設している1Kの賃貸住宅です。

● **毎朝・夕の安否確認**

福祉専門スタッフが訪問しお声かけします。

● **全室コールつき**

別階に通じるコールが全室付いており、必要時・緊急時にはいつでもスタッフが駆けつけられる体制となっています。

● **地域の交流スペース（1階）**

人との触れ合いがほしいとき、相談があるときなど、いつでもご利用いただけます。

＜料金＞	* 敷金	216千円
	* 家賃	72,000円
	* 共益費	8,000円
	* サポート料	30,000円



サポートハウス城南

【玄関】

【下駄箱】
たくさん入ります。

【洗濯機置き場】

【キッチン】
安全で操作簡単な電磁調理器です。

玄関 下駄箱
洗濯機置き場
冷蔵庫置き場

浴室
トイレ
クローゼット

洋室 7.5畳

ベランダ

【ベランダ】
南向きで風通しがとても良いです。
お天気だと富士山が見えます。

【クローゼット】
長いコートや布団も入ります。

小規模多機能型居宅介護「おたがいさん」

■小規模多機能型居宅介護とは…？

在宅で 24 時間 365 日の安心に、より近いケアを提供してきた「宅老所」の取り組みを、厚生労働省が着目して制度化したサービスです。介護が必要になっても住み慣れた家や地域で暮らし、家族や親しい人々とともに、小規模で家庭的な雰囲気の中で、お年寄り一人ひとりを尊重したケアを提供します。「通い」を中心に、「宿泊」や「訪問」などの機能を、単なるサービスの組み合わせを提供するのではなく、柔軟で継続したサービス体制とケアマネジメントで提供します。

■おたがいさんの特色

おたがいさんはこれまでの「お年寄りが行く施設」ではありません、お年寄りが主役の「第2の我が家」です。居心地が良いです。その証拠に（？）よく近所のオバチャンや子供たちがあがりこんでお茶を飲んだり遊んだりしています。・・・公民館？児童館？なんにしても歓迎です。 みんなでご飯を作ったり、犬と遊んだり、買い物に行ったり…あっという間に時間が過ぎます。「なじみの関係」ができる場所だから、入浴やお泊りもすんわりできます、お家にも駆けつけます。問題を抱えた方でも親身に援助します。

『お年寄りの笑顔に自信あり』ですので、とにかく一度見に来てください。個性的で涙もろいケアのプロがお力になります。



* 施設概要 *



住所：藤沢市亀井野 4-12-35

電話：0466-83-6317（直通）

代表者：加藤忠相

管理者：飯尾えり子

計画作成担当者：加藤律子

介護保険事業者番号：1492200124

* 定員 *

25 名

（通い 15 名／宿泊 5 名）

© 2011 株式会社あおいけあ All Rights Reserved.

Template design by Nikukyu-Punch

デイサービス「いどばた」

■なんといっても少人数（定員 13 名）

ちょっと狭いけど身近な距離があったかく、馴染みの関係がすぐに作れるため、認知症や施設利用に消極的なお年寄りにも安心です。入浴もお一人から OK、職員も一緒に食べている食事は「おいしい」と評判です。少人数ならではの小回りの利いた多彩なレクリエーション（お花見・みそ造り・いも煮会など）も開催。

当社では居宅支援業務をしていないため、ロコミやお付き合いのあるケアマネージャーさんしか知らない隠れ家的デイサービスです。

お試し利用ができます、お気軽にお問い合わせください。



グループホーム「結」

■「家族規格」のグループホーム（定員 7 名）

緑豊かな藤沢市の住宅地、地域の中に溶け込んだグループホームです。認知症になっても、

誰もが住み慣れた環境のもと、穏やかに年をとっていきたい。また、命ある限り自分らしく生き、一人の価値のある人間として存在したい、そう願っているのではないかと思います。

私たちの理念は『その人らしく生き活きと』。結の主演は高齢者の方々に、一人一人の個性を尊重した最適な援助を行うように心がけています。

見学は随時大歓迎です。お年寄りの笑顔から、認知症ケアのプロとしてのスタッフと、生活環境の質を感じてください。



* デイサービス「いどばた」 *



住所：藤沢市亀井野 4-12-93 電話：0466-83-6321（代表）

管理者：加藤忠相

副管理者：小池みゆき 定員：13名

介護保険事業所番号：1472201100